

## 6. 社会連携

### (1) 公開講座

センターでは、1986年度から毎年1回、市民向けの公開講座を開催している。テーマは、近年の研究潮流、スラブ・ユーラシア地域の動向、一般市民の関心などを考慮して選択されている。講師としては、センター教員のほか、他部局の教員、他大学の共同研究員、当該問題の専門家などが選ばれている。毎年のようにセンターの公開講座を受講している市民も多く、センターでは、毎年度アンケート調査を行って、公開講座の内容や運営の改善をはかっている。

#### 2014年度

##### 第29回公開講座「記憶の中のユーラシア」

実施期間:2014年5月12日～6月2日 受講者数:73人 開催責任者:越野剛

講義内容	講師
① 未来へ向けた記憶:帝政ロシアをカラーで撮った写真家	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授 望月 哲男
② 中国の革命観光	亜細亜大学 准教授 高山 陽子
③ ベトナム人から見たベトナム戦争の記憶	東京外国語大学 教授 今井 昭夫
④ チェルノブイリ原発事故の記憶と観光地化	株式会社ゲンロン 上田 洋子
⑤ ロシア文化の中の対ナポレオン戦争の記憶	千葉大学 准教授 鳥山 祐介
⑥ 亞港と尼港の旅人たち:ロシアと日本のはざまの記憶	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 研究員 井潤 裕
⑦ 記憶の中の大祖国戦争:ロシアとベラルーシ	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 准教授 越野 剛

#### 2015年度

##### 第30回公開講座「動乱のユーラシア:燃え上がる紛争、揺れ動く政治経済」

実施期間:2015年5月11日～6月1日 受講者数:94人 開催責任者:宇山智彦

講義内容	講師
① ガザ戦争後のパレスチナ:長引く紛争に翻弄される人々	東京外国語大学 准教授 錦田 愛子
② 中国経済とどうつきあうか:アジアの繁栄をともに維持するために	学習院大学 教授 渡邊 真理子
③ 「ムハージュールン(移住者)」を通して見るコーカサスのイスラーム復興	北海道大学大学院文学研究科 専門研究員 立花 優

④ イスラーム国の脅威と国際社会	日本エネルギー経済研究所 副センター長 保坂 修司
⑤ 東と西の狭間で:揺れ動く中東欧	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 仙石 学
⑥ ウクライナ紛争とロシア経済	ロシア NIS 貿易会 調査部長 服部 倫卓
⑦ ウクライナ危機と「イスラーム国」の波紋が重なる中央アジア	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 宇山 智彦

## 2016 年度

第 31 回公開講座「スラブ・ユーラシア社会におけるジェンダーの諸相」

実施期間:2016 年 5 月 9 日～5 月 30 日 受講者数:63 人 開催責任者:仙石学

講義内容	講師
① 女たちの祈り - 女性が支え、男性が司る正教会の現在と歴史	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 助教 高橋 沙奈美
② バルト諸国の男女間格差、女性間格差 - 構造と認識から考える	早稲田大学 教授 小森 宏美
③ チェコと日本 - 少子化とジェンダー役割	明治学院大学 教授 中田 瑞穂
④ 現代ロシアの労働とジェンダー	大阪大学 教授 藤原 克美
⑤ 真実を求めて - ノーベル賞受賞作家スヴェトラナ・アレクシエーヴィッチの世界と女性たちの「声」	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 共同研究員 中地 美枝
⑥ 現代ロシアの家族政策 - 国家における「母」の役割を中心に	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 助教 油本 真理
⑦ 東欧における女性の現状 - データをもとに考える	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 仙石 学

## 2017 年度

第 32 回公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」

実施期間:2017 年 5 月 8 日～5 月 29 日 受講者数:84 人 開催責任者:岩下明裕

講義内容	講師
① ボーダースタディーズから考える北東アジア	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下 明裕
② 中国の「一帯一路」構想と北東アジア	九州大学 准教授 益尾 知佐子
③ 境界地域 (+「近隣⇔中心⇔周辺」) から北朝鮮をめぐる国際関係について考える	島根県立大学 教授 福原 裕二
④ 海を越え響き渡るアリランの唄:越境する人々たちの物語	北海道大学大学院公共政策学連携研究部 講師 池 直美

## 6. 社会連携

⑤ 軍事・安全保障から見た日露関係と北方領土問題	未来工学研究所 客員研究員 小泉 悠
⑥ 「川の向こう岸」と「海外」:ボーダーとしての宗谷海峡	山形大学 准教授 天野 尚樹
⑦ 北東アジアにおける北海道:危機と機会	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下 明裕 北海道国際交流・協力総合センター 上席研究員 高田 喜博

### 2018 年度

第 33 回公開講座「ロシアと北極のフロンティア:開発の可能性と課題」

実施期間:2018 年 5 月 7 日～5 月 28 日 受講者数:73 人 開催責任者:田畑伸一郎

講義内容	講師
① ロシア北極圏の経済開発	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 田畑 伸一郎
② ロシア極東～北極圏の自然:北海道北方 3000 kmの 自然と人	国立極地研究所 教授 総合研究大学院大学 教授 教授 榎本 浩之
③ あたらしい海の道:北極海航路、過去、現在、未来	北海道大学北極域研究センター 教授 大塚 夏彦
④ シベリア最古の住民:古アジア諸語を話す人々の言 語と文化	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 共同研究員 永山 ゆかり
⑤ 北極域におけるパラディプロマシー:北極政治を理 解するために	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 助教 高橋 美野梨
⑥ シベリア北方少数民族の年金生活者:村落における マイナーサブシステムと交換の役割	東北大学 日本学術振興会特別研究員 PD 大石 侑香
⑦ サハにおける人間と環境の相互作用	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 特任助教 後藤 正憲

### 2019 年度

第 34 回公開講座「再読・再発見:スラブ・ユーラシア地域の古典文学と現代」

実施期間:2019 年 5 月 10 日～5 月 31 日 受講者数:47 人 開催責任者:野町素己

講義内容	講師
① カザフ文学とイスラーム世界:近代遊牧社会にとつて の古典とは何か	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 宇山 智彦
② トルストイ『戦争と平和』の戦争観・歴史観をめぐって	北海道大学 名誉教授 中央学院大学 教授 望月 哲男
③ ゴーゴリの手—『鼻』から「手」を考える	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 准教授 安達 大輔
④ K・チャペックの『ロボット』を読み直す	実践女子大学 准教授 ブルナ・ルカーシュ

⑤ ユーゴスラヴィアとポスト・ユーゴスラヴィアの文学—多文化空間の語り部たち	東京大学 教授 三谷 恵子
⑥ 19世紀文学のポストモダンの再読とその後:プルズ『人形』とトカルチュク『人形と真珠』	東洋大学 助教 小椋 彩
⑦ 「方言文学」から「古典文学」へ:スラブ系少数民族文学再考	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 野町 素己

## (2) 公開講演会

センターは、国際シンポジウムをはじめ国内外の研究者を招いて先端的な研究を議論する場を多く設けており、また特定のテーマに沿って講師陣を集めた公開講座も開いているが、専任教員が日常的におこなっている研究の成果を一般向けに話す機会は必ずしも多くなかった。そこで、専任教員の最新の研究内容やスラブ・ユーラシア地域の最新事情を、市民・学生・ジャーナリストなどに向け広く公開するための企画として、「スラブ研究センター公開講演会」を定期的開催することにした。年4回の定例公開講演会を開いている。

### 2013年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6月28日	田畑伸一郎	最近の日ロ経済関係を読み解く	70
9月28日	家田修	チェルノブイリと福島を地域と世界から考える	40
12月7日	松里公孝	ムスリム宗務機構の比較 中国 トルコ インド ロシア	21
3月14日	長縄宣博	イスラームのロシア 調和と暴力の複雑な関係	45

### 2014年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6月27日	山村理人	ウクライナの農業問題 ソ連崩壊後の構造変動と新興農業大国 としての発展	25
10月8日	越野剛	ベラルーシ、存在しなかった国の文学史	30
12月19日	野町素己	言語・民族・宗教 ゴラ人の文化とアイデンティティを巡る諸問題	30
3月6日	デイビッド・ウルフ	ハルビン駅へ:日露中・交錯するロシア満洲の近代史	50

## 6. 社会連携

### 2015 年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6 月 19 日	仙石学	少子高齢化を東欧から考える 東欧諸国の福祉政策	30
9 月 4 日	宇山智彦	比較帝国論から見る大国・小国関係:グレートゲームか らウクライナ紛争まで	41
12 月 18 日	岩下明裕	地域を変えるボーダーツーリズム 対馬・サハリン・オホーツク	39
3 月 25 日	望月哲男	ラスコーリニコフの最初の一步 ドストエフスキー『罪と罰』第1部を拾い読む	101

### 2016 年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6 月 24 日	田畑伸一郎	縮小するロシア経済:回復はあるのか?	45
10 月 7 日	家田修	『終わらない時間』 チェルノブイリ 30 年、福島 5 年	58
12 月 2 日	長縄宣博	クリミア・タタール人:その過去と現在	40
3 月 24 日	山村理人	スラブ・ユーラシア地域の農業問題 - 旧ソ連四カ国の 比較で見えること	41

### 2017 年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6 月 30 日	越野剛	ソ連から中国へ:社会主義文化の伝播	81
9 月 29 日	仙石学	東欧におけるポピュリズムとネオリベラリズム	38
12 月 22 日	野町素己	変わる言語とアイデンティティ:カナダのポーランド系移 民を題材に	32
2 月 16 日	菊田悠	ミルジヨエフ新大統領の改革路線:変わりゆくウズベキ スタン	40
3 月 9 日	デイビッド・ウル フ	第一次世界大戦と北東アジア	33

### 2018 年度

月 日	講 師	講 演 会 名	人 数
6 月 15 日	ジョナサン・ブ ル	サハリン・樺太から北海道への引揚げ	72
9 月 28 日	宇山智彦	大国間競争と権威主義に席卷されるユーラシア:日本 ができることは何か	62

12月21日	安達大輔	帝国の虚ろな風景:19世紀ロシア文学と否定性の実験	25
3月1日	岩下明裕	安倍政権のロシア外交を問う!	32

## 2019年度

月日	講師	講演会名	人数
6月14日	高橋美野梨	北極グリーンランドにおける非生物資源開発と独立問題	22
10月2日	田畑伸一郎	プーチンのロシア経済は磐石か?	59
12月20日	仙石学	30 Years After: 新生東欧の30年を振り返る	47

## (3) 北海道スラブ研究会

一般の人々との連携という使命の大部分は上述の公開講演会などに譲ったが、センターの新任研究者の紹介や、外国・道外から特色ある研究者が来訪した際の講演の場として本研究会を活用している。

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
開催回数	4	4	5	4	2	4

## (4) 研究所・センター公開

創成研究機構、触媒科学研究所、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センターは、北大祭期間中に合同一般公開を行っている。

展示としては、センターの歴史や出版物の紹介のほか、センターの教員・研究員・大学院生の協力により、中央アジア・モンゴルのカラフルな民族衣装や帽子、ロシアのマトリョーシュカやサモワールをはじめとする工芸品、スラブ・ユーラシア諸国の紙幣などを用意している。また、専任研究員による講演も行い、ユーラシアの国境問題、ロシアや中央アジアの歴史・政治・経済・社会、そして地域研究のあり方などを扱っている。その他、国境問題・境界地域に関するDVDを随時上映している。

開催日	内容		人数
2014年 6月7日 ～8日	テーマ	あれも! これも! ? スラブ・ユーラシア展	315

6. 社会連携

	サイエンス トーク	チェルノブイリのいま、そして未来へ～一緒に考えましょう～ (家田修) ポーランドとアイヌ～未知なる世界の、奇跡の出会い～ (北海道大学名誉教授 井上絢一)	
2015年 6月6日	テーマ	もっと楽しく！もっと詳しく！ スラブ・ユーラシア展	330
	サイエンス トーク	「20世紀最悪の環境破壊」の教訓－アラル海災害から学ぶべきこと (地田徹朗) 油価下落と制裁－ロシア経済は本当に危機なのか？ (田畑伸一郎)	
2016年 6月4日	テーマ	ユーラシアがわかる！スラブがわかる！	327
	サイエンス トーク	魅惑のコバルトブルー：ウズベキスタンのリシタン陶器現代史 (菊田悠) スラブ・ユーラシア研究センターは、なぜ北大に作られたのか？：セン ター誕生の歴史 (ディビッド・ウルフ)	
2017年 6月3日	テーマ	着て・見て・触れて！スラブ・ユーラシアの文化	343
	サイエンス トーク	ボーダーツーリズムの魅力を写真で語る：稚内・サハリンからのメッセ ージ (岩下明裕)(写真家 斉藤マサヨシ) ロシア革命と現代世界 (長縄宣博)	
2018年 6月2日	テーマ	知って楽しいスラブ・ユーラシア地域！	469
	サイエンス トーク	ロシア皇帝一家殺害事件－革命と贖罪の100周年 (高橋沙奈美) ロシア大統領選挙：プーチン政権のこれまでとこれから (油本真理)	
2019年 6月8日	テーマ	もっと楽しい！スラブ・ユーラシア	508

	サイエンス トーク	開発とグリーンランド独立:いま、北極で起きていること (高橋美野梨) ゴールデンカムイのサハリン島 (岩下明裕)(釧路公立大学講師 中山大将)	
--	--------------	--	--

### (5) 博物館展示

センターが中心となって組織した北大グローバル COE「境界研究の拠点形成」(2009～2013 年度)は、研究成果を研究者だけでなく一般市民にも広く還元すべく、北大総合博物館で展示を始めた。現在、その成果を継承した境界研究ユニット(UBRJ)がボーダースタディーズを観光の側面から実践するボーダーツーリズムを提唱し、その成果を展示している。

第1期展示「国境観光(ボーダーツーリズム)ーパレスチナ・対馬・樺太」

(2014/8-2015/3)

\*北海道大学総合博物館の耐震工事(2015年4月～2016年6月)のため、第2期よりリニューアル再開

第2期展示「ボーダーツーリズムー対馬・稚内・サハリン／斉藤マサヨシ国境写真展」

(2016/7-2017/7)

第3期展示「ボーダーツーリズムー稚内・サハリン・未来の国境観光／斉藤マサヨシ国境写真展 II」

(2017/8～2018/3)

第3期展示 II「ボーダーツーリズム／小林邦弘・国境絵画展」

(2018/4～2018/7)

第4期展示「ボーダーツーリズムーさまざまな日本のかたち・国境観光の現在／斉藤マサヨシ国境写真展 III」

(2018/8～2019/8)

第5期展示「ボーダーツーリズムー世界はボーダーフル／斉藤マサヨシ国境写真展 IV」

(2019/9～)

### (6) 政策提言

センターでは、各教員がそれぞれの専門知識を活かして、政府機関や自治体などに対し様々な政策提言を行っている。主なものは以下の通りである。

#### 【国境・領土問題 (岩下明裕)】

2005 年以来、ロシアと中国、中央アジア、ロシアと日本の国境・領土問題についての政策提言を積極的に行っている。とくにユーラシアの国境問題の解決法の分析及び他地域への実践的応用の著書『北方領土問題:4 でも 0 でも 2 でもなく』(中公新書)は大佛次郎論壇賞、日本学術振興会賞、日本の国境問題全体を扱った編著書『日本の国境・いかにこの呪縛を解くか』(北大出版会)は日本地方出版文化功労賞を受賞するなど、社会的に高く評価されている。前者については、中露の国境問題解決法である「フィフティ・フィフティ」



## 6. 社会連携

(係争地をわけあって解決する手法)をもとに、北方領土を日露で分け合う提言であり、参議院の決算委員会を始め、議会の答弁などにそのアイデアが採用された。後者については、根室、稚内、小笠原、隠岐の島、対馬、竹富、与那国など国境自治体と研究機関、民間シンクタンク、学会(日本島嶼学会)を結ぶネットワーク(境界地域研究ネットワーク JAPAN)設立(2011年11月)の契機となり、同ネットワークは実務と研究を連携させ、国境地域振興づくりについて様々な提言を行っている。その存在と論議は、2016年に成立した国境離島振興法についても影響を与えた。成果は英語(*Japan's Border Issues: Pitfalls and Prospects*, Routledge, 2015)でも公表され、国境・境界研究(ボーダースタディーズ)の国際的コミュニティにも高く評価されている。近年は自治体や旅行業界と連携し、ボーダーツーリズムを国内外で組織し、市民社会における境界問題の涵養に努めており、その社会における実践的な貢献を評価され、ダラム大学国際国境画定研究ユニット(IBRU)で新設された第2回 Milefsky 賞を受賞した。

### 【中央ユーラシア外交(宇山智彦)】

日本政府の「中央アジア+日本」対話の第10回(2017年)および第11回(2018年)東京対話でモデレーターを務め、日本・中央アジア関係や中央アジア諸国の地域協力に関する議論を促進した。2018年には外務省などの派遣により中央アジア諸国の代表的な大学・シンクタンクで講演し、日本の中央アジア外交を解説するとともに、関係の発展に向けての自らの提案を述べた。2015年度には日本国際問題研究所の中露関係研究会、2017~19年度には日本国際フォーラムの「変容するユーラシアの国際戦略環境と日本の対応」研究会に参加し、広くユーラシアに対する日本外交に関して提言を書いた。そのほか、外務省、国際協力機構(JICA)、国際交流基金、ロシア NIS 貿易会、中央ユーラシア調査会、筑波大学、霞山会、世界政経調査会国際情勢研究所、北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)、北海道総合研究調査会(HIT)などと協力しながら、日本の対中央アジア政策、中央アジアとの交流強化、世界秩序の変化への対応などについて、随時政策提言を行っている。また北方領土問題解決の難しさの背景にある日露の相互認識ギャップを縮める必要性を、帝国論の知見を活かしながら新聞などのメディアで指摘し、その一部は海外でも英語・中国語で紹介された。

### 【東欧と日本との関係(仙石学)】

2017年度から2019年度にかけて公益財団法人・日本国際問題研究所の研究プロジェクト「自由で開かれた国際秩序の強靭性—米国、中国、欧州をめぐる情勢とそのインパクト」のサブ・プロジェクト III「混迷する欧州と国際秩序」(主査:遠藤乾北海道大学教授)に参加し、現地情勢の分析と合わせて、日本と東欧・EUとの関係についても分析・提言を行った。

### 【ロシア極東地域との交流(田畑伸一郎)】

センターは、北海道とサハリン州の間で設けられた北海道・サハリン州友好・経済協力推進協議会の構成機関となっており、田畑は2011年度から北海道側座長として北海道とサハリン州との間における会合および北海道側の会合に参加し、友好・経済協力推進に関わる様々な提言やそのとりまとめに関与した。また、北海道とロシア極東3地域(サハリン州、沿海地方、ハバロフスク地方)の間では、北海道とロシア極東地域との経済交流推進のための常設合同委員会が設置され、その北海道側の委員会として北海道・ロシア連邦極東地域経済交流推進委員会が設けられているが、センターはその構成機関となっており、田畑はその委員とし

て北海道とロシア極東 3 地域との間における会合および北海道側の会合に参加し、経済交流推進に関わる様々な提言の作成に関与した。